

市町村公民館・交流センター 事業関係者等研修会

本研修会は、公民館事業に関わる人等を対象に、公民館に住民が集うために、地域住民のニーズのつかみ方や情報発信の仕方、地域住民への働きかけ方等について知識・理解を深め、公民館の活性化に向けた実践に活かすことができるようにすることを目的に、研修内容を企画しました。管内の公民館・交流センター事業に携わる関係者23名が参加し、一緒に学びを深めました。

研修1〈実践発表〉

「講座からサークル活動へ」～高齢者教育の実践から～

大任町教育委員会 教育課 課長補佐 兼 社会教育係長 岩本 典久 氏

岩本氏による実践発表では、大任町公民館がコロナ禍前から現在も継続している3つの事業「公民館講座」「高齢者講座」「サークル活動」について発表していただきました。その中で、事業の目的・実施に至る経緯・プログラム作成の視点について説明していただきました。

事業内容では、公民館が地域住民同士の交流の場となり、自主的に活動するサークルが発足したことを伝えていただきました。



研修2〈講話〉

「ニーズをつかむとはどういうことだろうか」

～住民の当事者性を支える公民館に向けて～

九州大学大学院 人間環境学研究院 教授 岡 幸江 氏



岡氏による講話では、地域住民の学びのニーズの中には、地域住民自身も気づいていないものもあり、それらを捉えるためには、地域住民と語り合う場や学び合う場の中で、地域住民の変化を見抜く力を持つことが大切になることを示していただきました。また、地域のスポーツ大会やお祭りの場に出かけて行って、担当者としての立場ではなく、地域住民の立場に立って、地域の方と話す場面を見出していくことが大切であることについても示していただきました。参加者は、コロナ禍前後の変化する地域住民のニーズをつかむために必要な知識を深めることができたと考えます。

研修を終えて

研修後のアンケートには、「潜在的なニーズに気づける場作りをめざします。」「交流センターにしかできないこと、交流センターだからできることがあると強く思いました。」「職員として『人をつなぎ、学びの場を組織すること』『人と人との出会いの場を設定すること』の必要性を再認識しました。」等の感想がありました。

本研修会を通して、地域住民のニーズのつかみ方だけでなく、公民館の役割や必要性について理解が深まり、公民館の活性化に向けて、実践しようとする意欲を高めることができたと考えます。今後、関係者の方々が地域住民のニーズをつかみ、各地域において、持続・発展する公民館活動が展開されることを願っております。

